

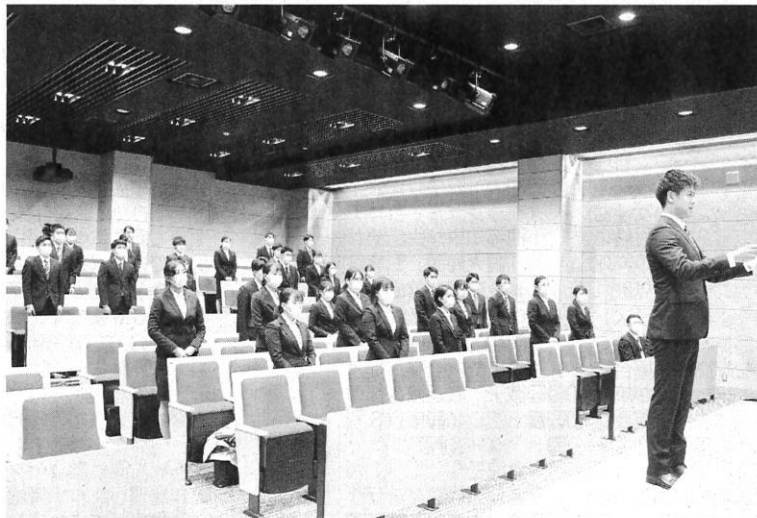
# いつもと違う新年度

## 入社・入庁式「好機と捉え新風を」

県内の企業や自治体などで1日、多くの若者たちが新たに社会人の仲間入りをした。新型コロナウイルスの感染予防を徹底するため、辞令交付式を簡潔にしたり、インターネットを通じて訓示するなど、いつもと違う新年度の初日に。異例の門出に経営者らは「変化を好機と捉えて新風を」と訴えた。

＝1面参照

(小林哲伸、山田浩美、岸鉄夫)



埼玉縣信用金庫の新入職員の入庫式は出席者全員がマスクを着け、席も間隔を空けた。所要時間も昨年より約20分短縮された＝1日午前、熊谷市

埼玉のそな銀行は入社式を中止し、3日までの日程で県内の研修所で少人数に分類した新人研修を始めた。研修の冒頭、1日付で就任の福岡新社長の動画メッセージが流され、福岡社長は「お客さまにとって身近で頼りがいのあるパートナーを目指している」と呼び掛けた。6～10日は自宅待機で、配布テキストやインターネット利用のEラーニングを行う予定。

武蔵野銀行では、長堀和正

頭取がインターネットを通じてテレビ会議システムで新入行員106人に訓示した。長堀頭取は「コロナ感染拡大もあり、景況感は悪化しているが、埼玉には多くのチャンスがある。地域の課題解決に取り組み銀行員へ成長してほしい」と期待を述べた。新入行員の斉藤陸さん(22)は「式を中止は残念だがこの経験を糧にしたい」と話した。

埼玉縣信用金庫は熊谷市内で午前10時半から入庫式を行い、新入職員54人が出席した。会場では隣の席の間を空けたり、出席者の検温、全員マスク着用に対応を取った。橋本義昭理事長は「金融機関は新型コロナや超低金利の継続など厳しい環境下で変化の時代にある。変化を好機と捉え新風を吹き込んでほしい」と訴えた。

川口市は1日、人財育成センターで本年度の新規採用職員辞令交付式を行った。奥ノ木信夫市長は新入職員152人に「市民に喜んでもらえるように役に立つように頑張ってください。役人目線にならないで、市民目線で仕事をしてほしい」と訓示した。

新型コロナウイルス感染防止のため窓を広く開け、全員がマスクを着用。名前を呼び、1人ずつ辞令交付するのが慣例だが、今年は企画財政部企画経営課に配属される榎本竜成さん(22)が代表して辞令交付を受け、「全体の奉仕者として誠実かつ公正に職務を執行することを誓います」と宣誓した。式後、協働推進課で外国人

との交流や多文化共生の仕事に就く岡部歩乃果さん(22)は「外国人も一緒に川口をつくっていく気持ちで仕事をしていきたい」と抱負を語った。戸塚支所勤務となる柳田悠馬さん(22)は「地元で、地元のために働きたいと願っていたので川口市に就職した。近さを生かして自分を磨きたい」と語った。

戸田中央総合病院など29病院・6老健施設を運営する戸田中央医療グループも新入着任式をやめ、中村隆俊会長は手紙に、中村毅副会長らはビデオレターに切り替えた。中村隆俊会長の手紙は事務職員や看護師ら824人に宛て、熊谷出身の日本初の女性医師荻野吟子の生涯に触れ、「私たちも病気の人を助けることを第一に考え、ひたむきに誠実に頑張ってください」と訴えた。

戸田市教育委員会は教職員75人がそれぞれの着任校で力メラの前に集まり、教育センターからの菅原文彦市長や戸ヶ崎勲教育長の訓示の映像を見た。小中学校18校のリアルタイムの映像が流れる中、戸ヶ崎教育長は力メラ越しに「社会の変化を生き抜くための教育が求められている。自分の子ども入れたい、教えてもらいたいと思える学校の実現を目指してほしい」、菅原市長は「戸田市が掲げる教育日本一を共に目指してほしい」と述べた。